

2020年10月期 決算説明資料

株式会社モルフォ
(東証マザーズ：3653)



目 次

①

2020年10月期 連結決算概要

P4

②

当社の事業進捗状況

P11

③

2021年10月期 事業計画・業績予想

P14

④

今後の展望・取り組み

P18

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で
入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。
当該情報および仮説に含まれる不確定要素や事業環境の変化による
影響等により、実際の業績等は本資料記載の内容とは異なる場合が
ございます。

①2020年10月期 連結決算概要

売上

（通年）米中貿易摩擦/新型コロナウイルスの影響により顧客の出荷台数が減少。結果として当社へのロイヤリティが減少し、売上高は前年比△21%の2,073百万円

売上

（Q4）国内子会社モルフォAIソリューションズの売上が貢献し、Q3比17%増の520百万円

営業費用

（通年）将来の成長のための人材投資を継続し、営業費用が前年比9%増となったことにより、営業利益は△144百万円

特別損失

（Q3）フィンランド子会社Top Data Science社に係るのれんを減損（216百万円）

税金費用

（Q4）会計基準の要求に伴いモルフォ単体の繰延税金資産を取崩（213百万円）

Q4連結業績サマリー

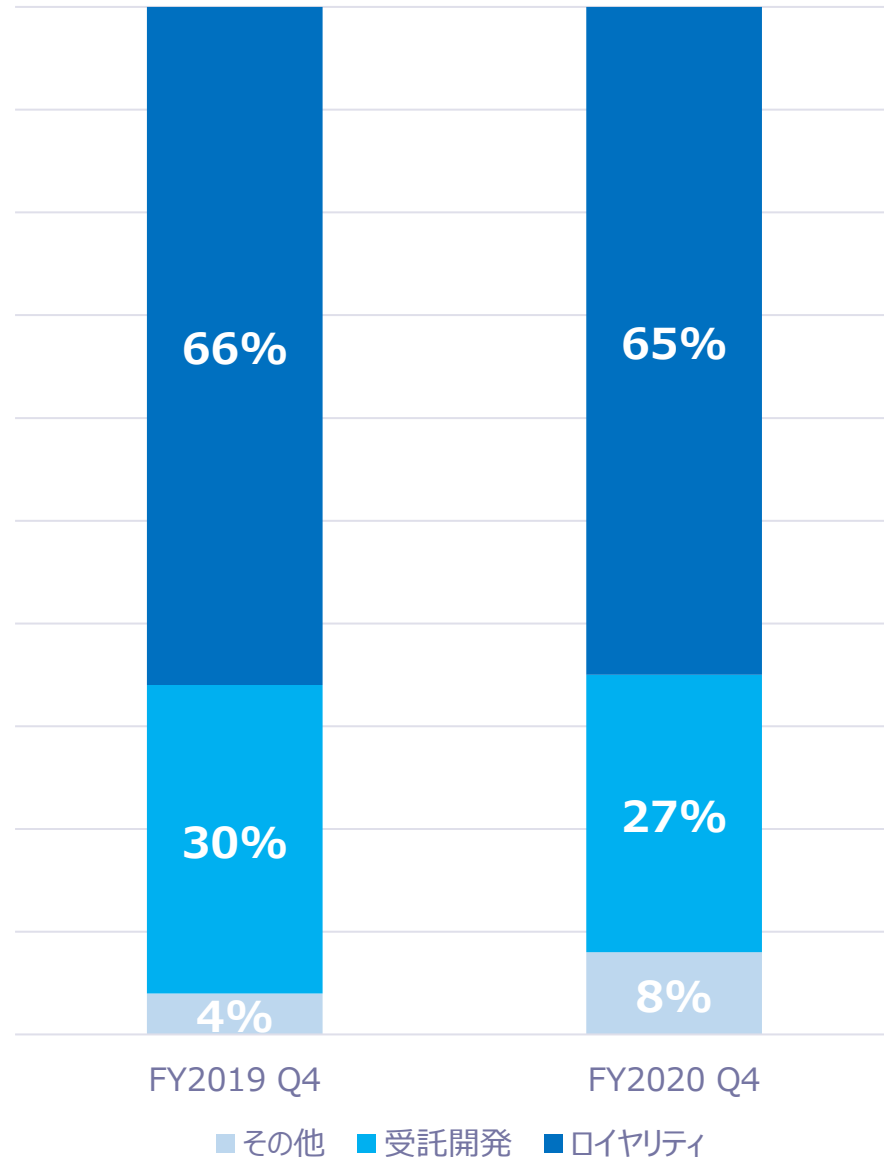
単位：百万円

	FY2019 Q4累計	FY2020 Q4累計	前年同期比
売上収益	2,608	2,073	△21%
営業利益	586	△144	—
EBITDA*	688	1	△100%

*EBITDA (Earnings Before Interest Taxes Depreciation and Amortization) = 税金等調整前四半期純利益 + 支払利息 ± 特別損益 + 減価償却費**

**減価償却費 = 有形固定資産減価償却費 + 無形固定資産減価償却費 + のれん償却額

売上収益構成 - ビジネスモデル別 -



■ ロイヤリティ 1,347百万円 前年同期比▲386百万円

中国特定顧客からのロイヤリティ収入が大幅減少

北米地域の主要既存顧客からのロイヤリティは堅調

■ 受託開発 560百万円 前年同期比▲215百万円

国内子会社の受託案件収入が伸長

一方で自動車関連の受託案件が一時的に足踏み

■ その他 164百万円 前年同期比 +66百万円

サポート収入は前年並

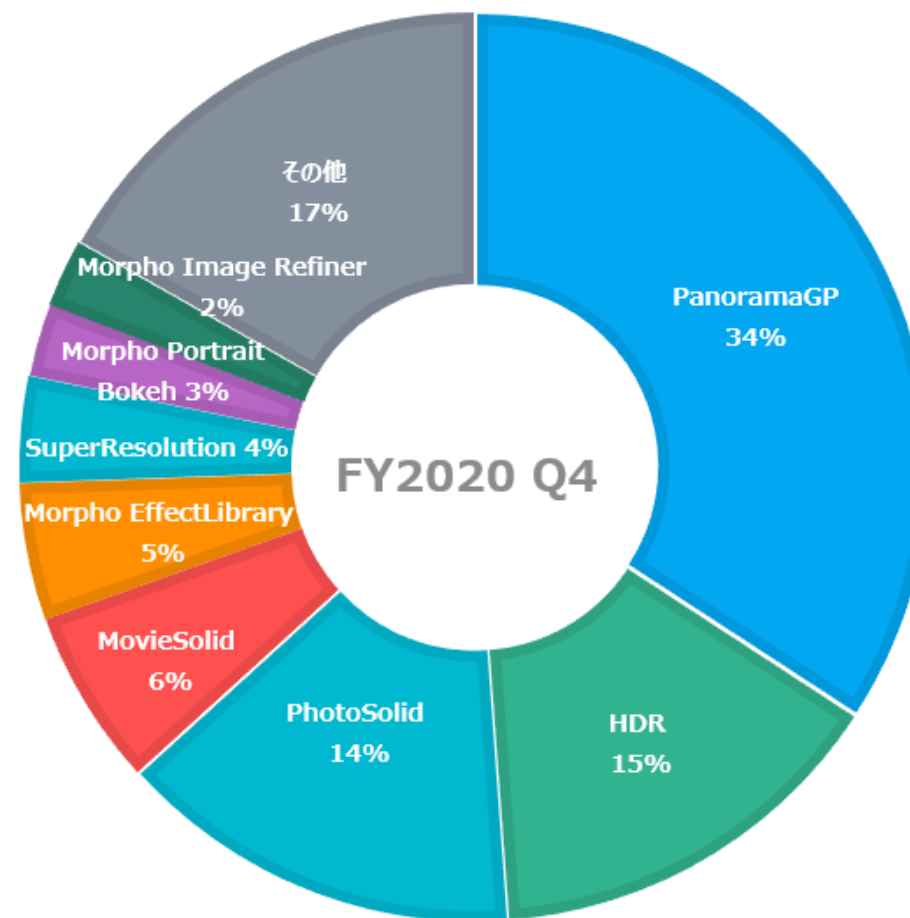
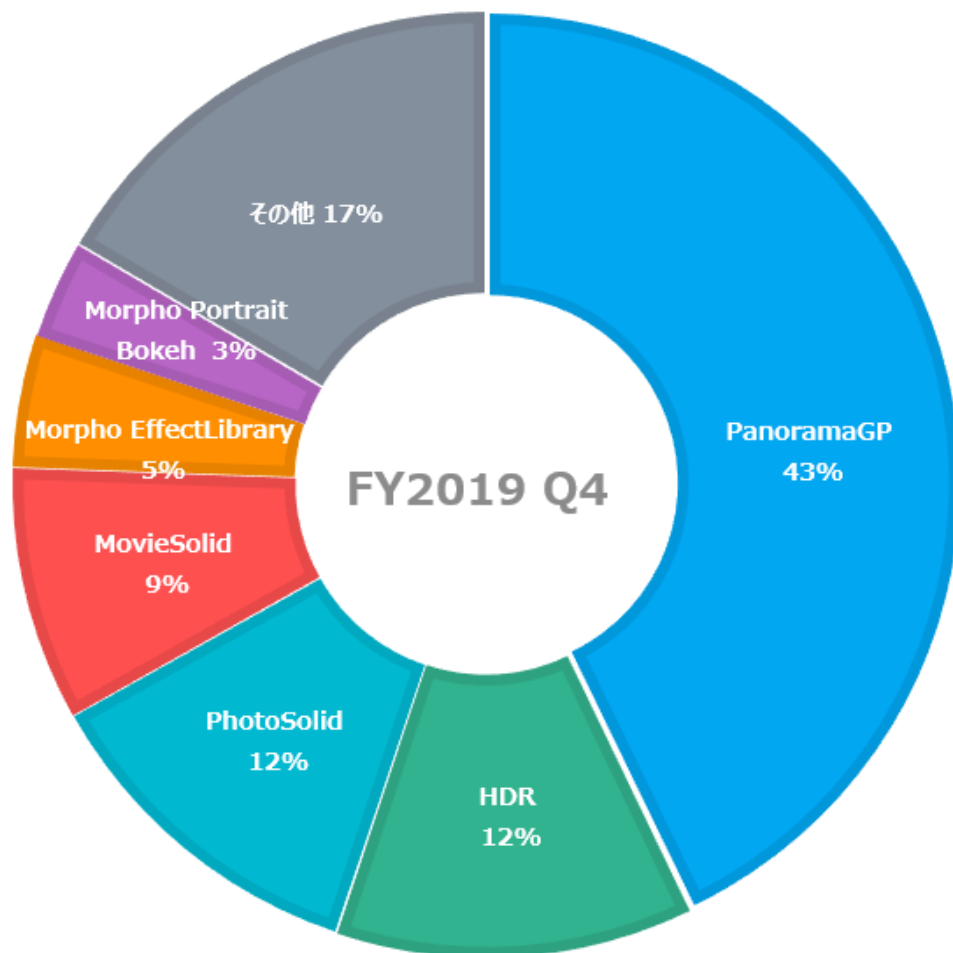
TDSのコンサルティング事業は堅実に伸長

売上収益構成 - ソフトウェア製品別 -



■ 中国特定顧客の売上減少に伴いPanorama GPの割合が低下

■ 近年発表した新製品の売上伸長



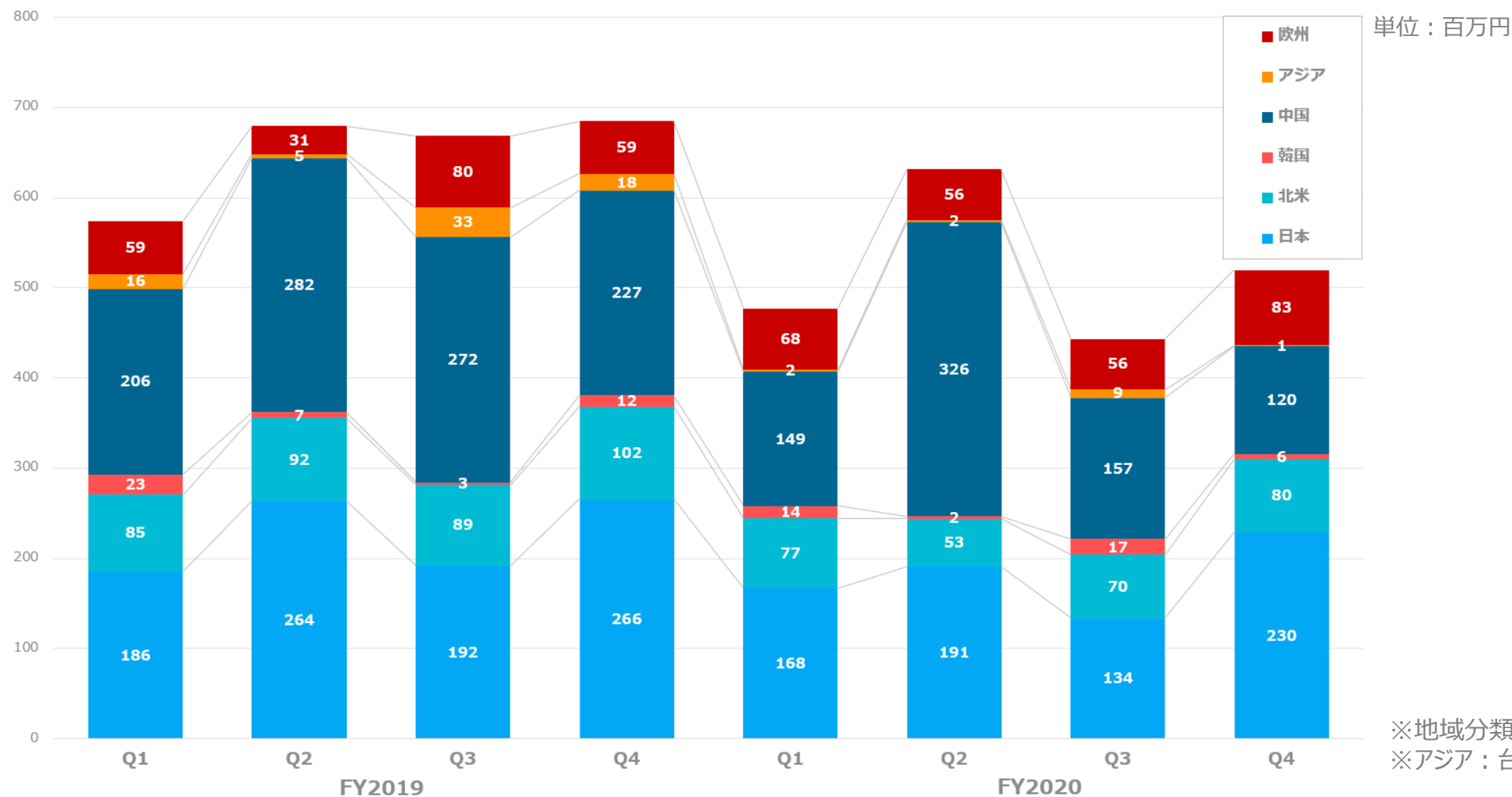
%はソフトウェアのロイヤリティ収入に対する割合

地域別売上推移



■ 日本 国内子会社が収益貢献するも受託開発収入減少響き苦戦

■ 中国 特定顧客からのロイヤリティ収入減



連結PLサマリー

単位：百万円

	FY2019	FY2020	
	実績	実績	増減
売上	2,608	2,073	△535
営業費用	2,021	2,217	195
営業利益	587	△144	△730
営業外利益	△44	7	51
経常利益	543	△137	△679
その他利益	△203	△516	△313
当期純利益（税引後）	340	△652	△992

増員による社員人件費の増加、積極的な研究開発活動の継続、新型コロナウイルス感染症対策費用の発生等により、販売管理費が増加

為替差損の圧縮により営業外費用の大幅減

TDS社のれん減損損失、繰延税金資産の取崩による悪化

②当社の事業進捗状況

2020年10月期 事業進捗状況（中核事業）



	Vision 2021 主な取り組み	17期の進捗
スマート デバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・競争優位性のある製品を展開する ・半導体メーカーとのパートナーシップを強化する ・中級機種以下への販売を拡大する 	<ul style="list-style-type: none"> ・『Morpho Semantic Filtering™』の開発 ・米クアルコム社とのパートナーシップが進展中 ・中級機種以下への販売拡大を促進
車載・ モビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・車載向け技術を建機、農機、船舶などに展開する 	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナー企業との取り組みが進展中 ・車載向け技術の新規顧客開拓が進展中
インダストリアル IoT	<ul style="list-style-type: none"> ・ファクトリーオートメーション分野での事業を確立する ・サービュランス市場における事業性を見極める 	<ul style="list-style-type: none"> ・外観検査AIビジネスに来期商用化の目途 ・セキュア社との連携により、サービュランス市場での事業展開を開始

2020年10月期 事業進捗状況（育成事業）

	Vision 2021 主な取り組み	17期の進捗
デジタル・メディア	<ul style="list-style-type: none">・国内の映像制作市場においてデファクト技術となる・グローバル展開を推進する	<ul style="list-style-type: none">・NHKに加えてポストプロダクション企業に採用推進中
メディカル・ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none">・医療従事者支援事業への参入を検討する・ヘルスケアビジネスへの技術提供を伸ばす	<ul style="list-style-type: none">・海外子会社Top Data ScienceがAIを活用したPCR検査等感染症検査向けの開発成果を発表

③2021年10月期 事業計画・業績予想

新型コロナウイルス感染症拡大や米中貿易摩擦の影響により、
当社を取り巻く外部環境が中期経営計画「Vision2021」作成時から大きく変化



- ◆ **中核事業(スマートデバイス、車載・モビリティ、インダストリアルIoT)に資源集中
→顧客基盤の拡大、新規用途展開への取り組みを促進**
- ◆ **19期以降の売上拡大/成長のための人材投資、グローバル展開を加速**

中核事業における2021年10月期取り組み

18期の取り組み

スマートデバイス

- ・顧客基盤を拡大し、特定メーカー依存から脱却する
- ・半導体メーカーとのパートナーシップを進める
- ・Dual Camera、PC・Tablet端末カメラ用途での採用拡大を目指す

車載・モビリティ

- ・パートナー企業との連携強化によるビジネス最大化を実現する
- ・新規ビジネスの開拓に注力する

インダストリアル IoT

- ・外観検査AIビジネスでの新規リカーリングモデルの確立を目指す
- ・コンサルティング機能強化、他ベンダーとのオープンイノベーションを促進し、社会インフラ分野でのビジネスを立ち上げる

2021年10月期 連結業績予想



将来の成長のため、グローバルな視点での成長投資を実施予定

単位：百万円

	FY2020	FY2021	
	実績	予想	増減
売上	2,073	2,450	376
営業費用	2,217	2,600	383
営業利益	△144	△150	△6
営業外利益	7	△10	△17
経常利益	△137	△160	△23
その他利益	△516	30	546
当期純利益（税引後）	△652	△130	522

新規用途/新規取引先への販売を増加させる計画であり、売上高が増加見込

グローバル展開強化のため、海外子会社での採用増加に伴い営業費用が増加見込

FY2020で発生した特殊要因（減損、繰延税金資産取崩）が発生しない見込みのため、減少

④今後の展望・取り組み

今後の展望

◆ 市場ポテンシャル

将来的な労働人口減少

→「AI」による生産性向上が課題

→人間の目に代わる「画像」ニーズ

◆ 環境変化

新しい生活様式

→非接触型業務への移行

→「画像」「エッジ」のニーズ

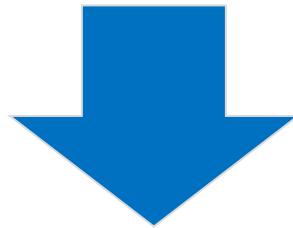
◆ リスク認識（現状）

特定市場

特定顧客

特定地域

} 売上が集中/偏重



売上の拡大とともに

特定の事業・顧客・地域に依存しないビジネス構築を目指す

- ビジネス多様化の取り組みを推進
- さらなるグローバル展開の推進
- パートナー企業との継続的連携

ビジネス多様化の取り組み（事業ドメインの拡大）

「画像」、「AI」、「エッジ」ニーズの広がり

→**新規ビジネスの拡大**

スマートフォン

車載・モビリティ



社会インフラ

スマートファクトリー

監視カメラ

PC/タブレット

スマートフォン

車載・モビリティ

【多様化】映像解析ソフトウェア「Crowd Counting」

イベント会場の来場者数と密度情報をカメラ映像から判断

▶ 大規模なアミューズメント施設やイベント会場等、来場者が密集するような状況での人数把握ニーズに対応



SÉCURE  morpho

事業進捗

- セキヤ社と当社にて、防犯カメラ映像から混雑状況を判定する『SECURE群衆カウントソリューション』を共同開発し、2020年11月より提供開始

【多様化】モルフォAI技術が東京ウエルズ社の画像検査システムに採用



● AI×IoTを活用しスマートファクトリー化に貢献

▶ 東京ウエルズ社の画像検査システムに採用



高速テーピング機

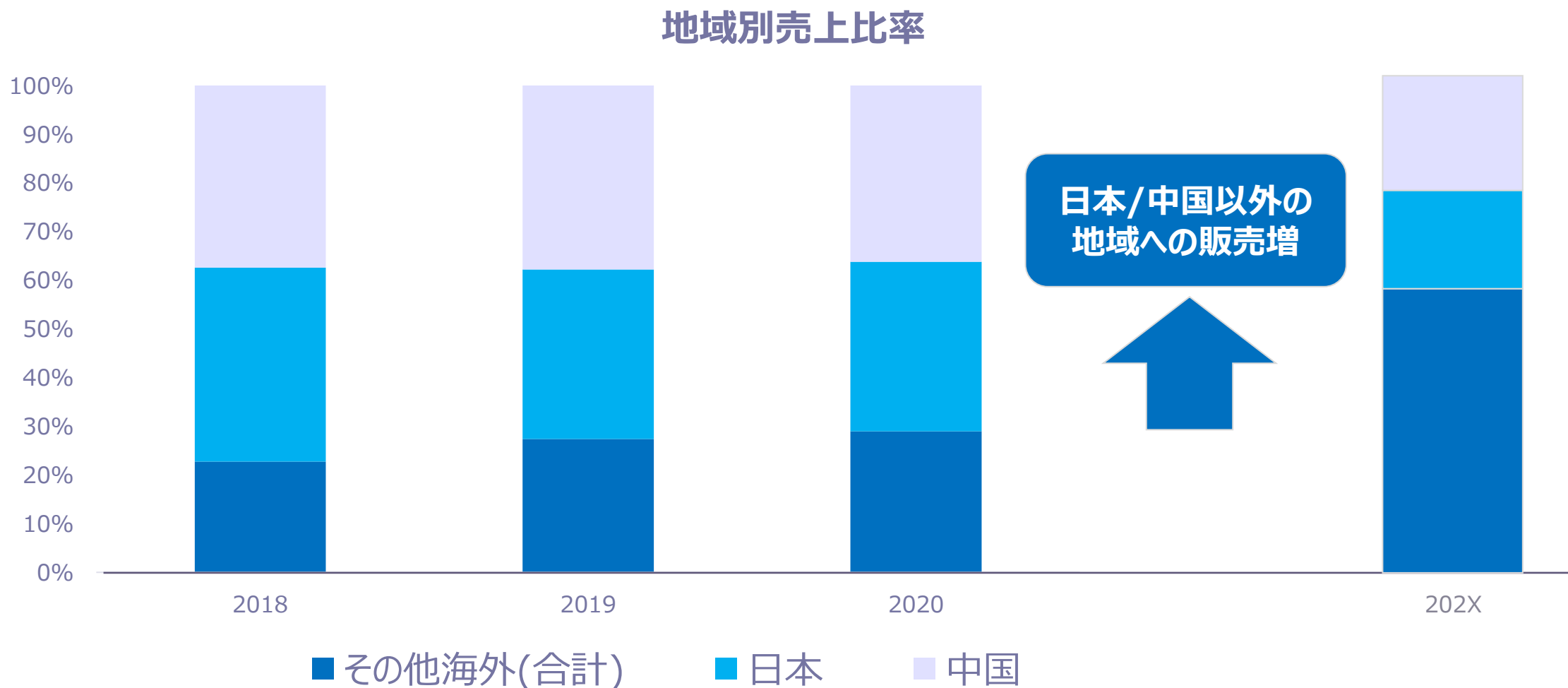


六面外観検査機

今回採用された技術

- 分類技術『Morpho Deep Recognizer™』
電子部品のキズや汚れ、欠けなどの不良品検知を目的とした良品画像・不良品画像の分類。
- AI学習環境
今回の学習モデルを生成。典型的な処理だけでなく、各種モデルが実装されており、新たな実装なしに様々なTraningを実施可能。
- 『SoftNeuro®』
モルフォの世界最速級のディープラーニング推論エンジン。今回の分類技術や異常品検知技術に活用され、高速な処理を実現。

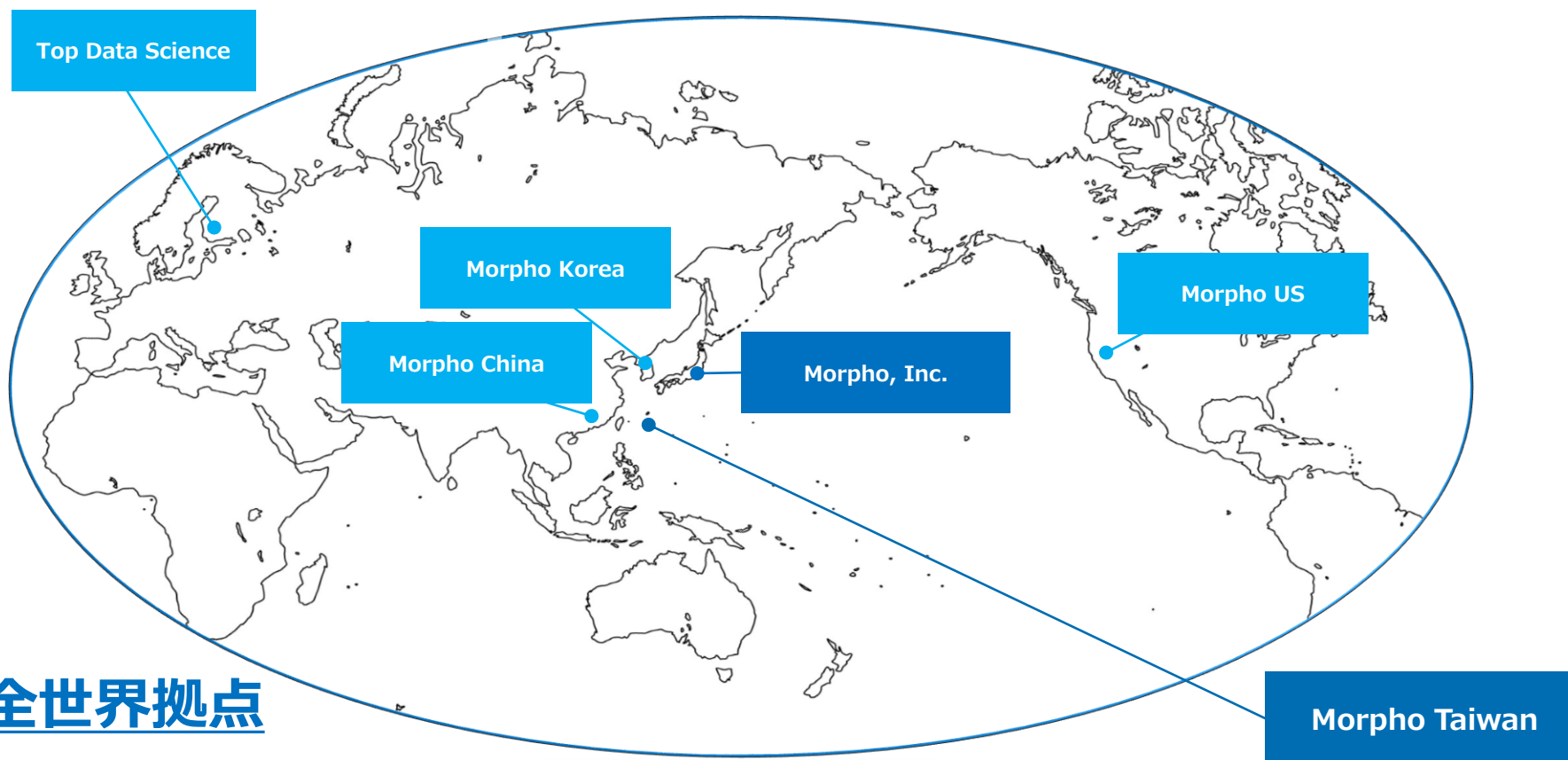
- グローバル展開を推進し、売上拡大とともに特定地域への依存度を減らす



【グローバル推進】『Morpho Taiwan, Inc.』設立(2020年)



現地における迅速かつ柔軟なサポート体制構築、
グループ事業拡大の取り組み強化を狙う



モルフォグループ°全世界拠点

パートナー企業との連携強化を継続

- スマートデバイス/車載・モビリティ：パートナー企業との連携を強化

◆ パートナー企業との連携

- ・ディープテクノロジーへのアクセス可能
- ・商用化までの時間短縮
- ・ビジネスチャンス拡大

スマートデバイス

- ・ 米クアルコム社との連携（Qualcomm Software Accelerator Programのメンバー）を継続強化
- ・ その他半導体メーカーとのパートナーシップ展開の拡大を模索

車載・モビリティ

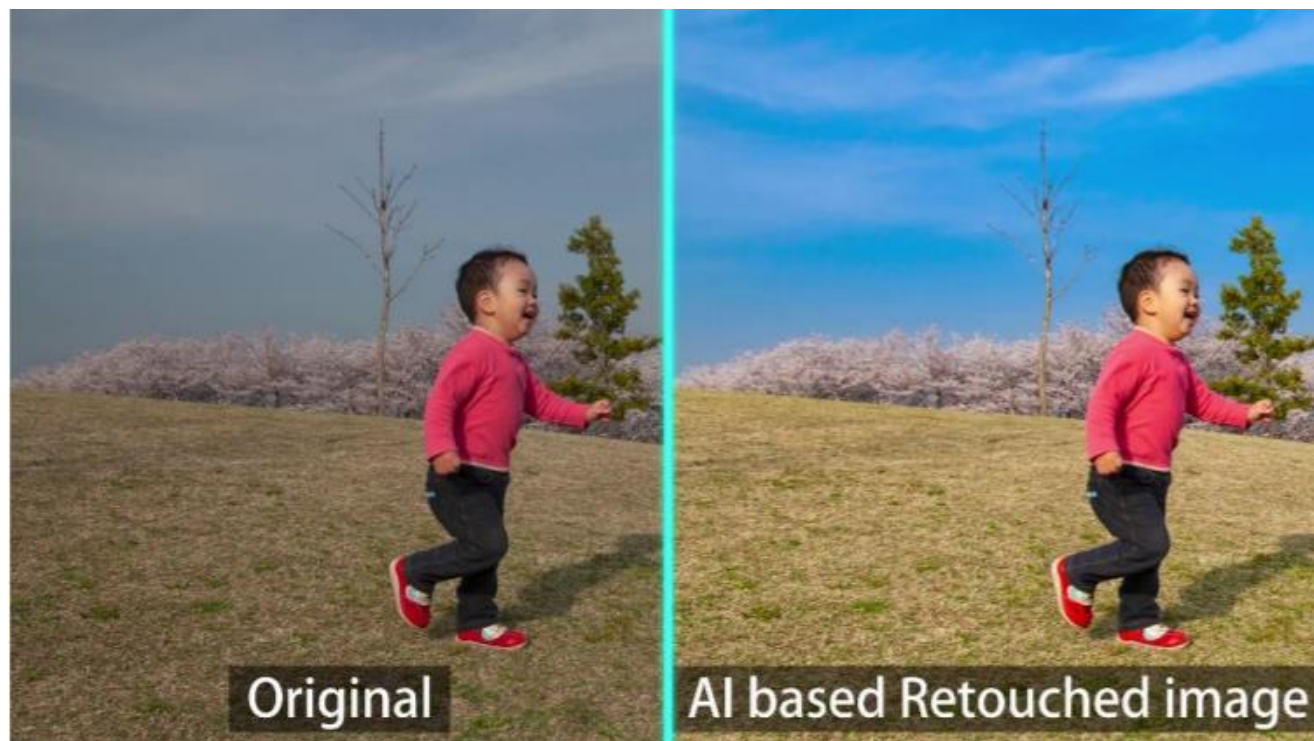
- ・ ルネサスエレクトロニクス社のR-Carコンソーシアムに参画
- ・ 先進安全システム（ADAS）の実現に向け技術開発/市場への展開をより一層促進

【新製品】『Morpho Semantic Filtering™』



● 米クアルコム社「Snapdragon Tech Summit Digital2020」にて紹介

▶ 最新フラッグシップモデル Qualcomm® Snapdragon™ 888 5G モバイルプラットフォームに適應する技術



『Morpho Semantic Filtering™』紹介

- AIにより画像内に写る物体の領域分割を行い、物体ごとに最適な画質向上を施すことができる技術
- 最新バージョンでは、風景シーンにおいて8種類以上の領域分割カテゴリーを認識
- 領域分割の結果を最適化する技術を採用し、これまで以上に細部に及ぶ正確な分割を実現

【連携強化】AI学習環境システム：デンソー社が開発向けに採用



- デンソー社との共同研究開発において、
モルフォのAI学習環境システムが高度運転支援・自動運転システム開発に採用



- デンソー社の高度運転支援・自動運転システム開発において、
さらに大規模になる次世代学習環境にも組み込まれ、ライセンスも決定

将来のさらなる成長に向けて

「画像」、「AI」、「エッジ」ニーズの広がり

→ **新規ビジネスの拡大**

グローバル推進、パートナー連携強化

→ **既存ビジネスの成長**

スマートフォン

車載・モビリティ

社会インフラ

スマートファクトリー

監視カメラ

PC/タブレット

スマートフォン

車載・モビリティ



お問い合わせ先

管理部 IR担当

T E L : 03-3288-3288

E-Mail : m-info-ir@morphoinc.com